

浮き城のまち景観賞
審査対象作品一覧

作品番号	作品名	応募年度	所在	応募者による推薦理由	用途
①	十万石水城公園店 	17	天満78-10	城下町と言えば、蔵造りの建物がある街並みを想像します。そんな蔵をイメージし、蔵の象徴であるなまこ壁も現代風にアレンジした建物です。	菓子店
②	彩々亭 	19	佐間1-11-22	昭和の初め、足袋の産地として栄えていた行田。中でも荒井八郎氏は、一代で財を築き上げた足袋屋の名士で、彼が贅を尽くして建てた邸宅が「足袋御殿」と呼ばれました。これを料亭として復元させたのが彩々亭です。随所に大正ロマンの雰囲気漂う和洋折衷造り。また、庭園の中央には、富士山の溶岩で作られたという築山があり、その上からは滝が流れています。	飲食店
③	行田天然温泉 古代蓮物語 	17	向町19-26	地中深く眠っていた古代蓮の実に原始的なロマンを求め、地下1200mから湧き出た天然温泉を贅沢に使い、行田で一番の天然温泉を掘りました。皆様に身近に本当の温泉を味わっていただける建物です。	日帰り温泉
④	蔵一山 	19	桜町2-29-3	酒蔵を改造し、飲食店舗としてコンバージョンした建物である。敷地を囲う黒の板塀や幟旗が酒蔵の外観にマッチし、落ち着いた雰囲気を醸し出していると共に、藁や緑をふんだんに取り入れたことで、市街地において自然的な要素が味付けされている。交通量の多い県道沿いにありながら、行田らしい、歴史を感じさせる景観を創出している。	飲食店
⑤	横田酒造(株) 	19	桜町2-29-3	狭い路地に面した、昔からの酒蔵・店舗である。煉瓦造りの壁が、商店会設置の街路灯や路地のイメージとマッチし、レトロな雰囲気を漂わせている。また、キリンビールやキノエネ醤油の看板により、まるで昭和半ばの時代にタイムスリップしたかのように錯覚され、ノスタルジックな感傷に浸れる市内でも数少ない場所である。	店舗・酒蔵
⑥	レストラン&喫茶 SAKURAGARDEN 	19	長野1813-1	洋食（オムライス）を提供する店舗ながら、その外観には、竹や板塀、暖簾など和の素材をふんだんに取り入れており、思わず立ち寄ってみたいくなる独特の雰囲気を醸し出している。店の看板も、色彩を抑えた黒色のものとオムライスを連想させる黄色のものとの使い分け、周囲の景観に違和感なく溶け込んでおり、交通量の多い県道沿いにおいて、行田の街のアイデンティティをさりげなく主張しているようである。	飲食店
⑦	高窓のある農家 	19	大字南河原1211	農村地帯に佇む、屋敷林で覆われた広い敷地の邸宅である。この辺りとしては珍しく高窓を持っており、養蚕農家である（或いはあった）ことが伺える希少な建築物と思われる。農村部のため、辺り一帯は田畑と人家が混在しており、緑が生い茂る屋敷林に囲まれたその外観は、この時期、道端に咲くコスモスと相まって、自然の温かみを包容したのんびりとした雰囲気を漂わせている。	一般住宅
⑧	国道沿いに佇む豪邸 	19	城西4-7-14	国道125号を走行していると、奥まった場所にありながら目を引かれる、その存在感に圧倒される建物である。その威風堂々たる外観は、飲食系や娯楽系の店舗が散在する辺り一帯において、行田の歴史を静かに見守っているかのような、厳かな空気に包まれている。	一般住宅
⑨	武蔵野銀行行田支店 	18	行田4-5	明治時代の建築物のように歴史を感じさせる。	銀行店舗
⑩	忠次郎蔵 「旧小川忠次郎商店」 	18	忍1-4-6	蓮華寺通りに面し、行田を代表する産業であった足袋の原料を商っていた。解体予定だった建物を改修し、店舗などとして再活用している。「足袋の町・行田」らしさを象徴し、蓮華寺通りの景観の創出にも寄与している。また、行田の足袋産業最盛期を象徴する建物として、国の登録有形文化財にもなっている。	飲食店